

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600340		
法人名	エフビー介護サービス株式会社		
事業所名	グループホーム エフビーここあ深谷		
所在地	埼玉県深谷市新戒1367		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和4年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出・外食が難しい中、近所を散歩したり、ドライブをしたり・テイクアウトでお昼を召し上がったりと 気分転換を計っております。
入所者様、一人一人のニーズを把握し、寄り添い、考え、より良い介護が出来るように、職員一同取組んでおります。笑顔溢れる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の体調や行動の変化を日々観察し、気付きを持って声掛けを行い、行動を否定せず、笑顔で1人ひとりに寄り添い、各自の出来ることや行いたいことを見つけ、役割を果たしていただくことで、自分が役に立っていると感じていただける、本人本位の支援が行われている。
- ・運営推進会議は、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や利用者の状況を書面にまとめ、会議のメンバーに届けて意見等を伺い、会議の代替とされている。
- ・目標達成計画については、夜間想定を含む年2回の避難訓練が行われ、風水害については、過去の避難の経験から問題点を洗い出し、より適切な避難場所の検討が行われ、避難マニュアルも作成されていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際に、ここあの理念を踏まえて、職員に投げかけ、共有を行っております。又、壁に張り紙をし、いつでも再確認できる体制にしている。	コロナ禍ではあるが、利用者の体調や行動の変化を日々観察し、気付きを持って声掛けを行い、行動を否定せず、笑顔で1人ひとりに寄り添う、理念に基づいた利用者本位の支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ごみゼロ運動等の地域の活動を通し、地域に関わる努力を行っているが、高齢化により入所者の参加は至っていない。日常的に交流は出来ていない。	地域の催しなどへの参加が困難となる中、散歩の折に挨拶を交わしたり、自治会館の菊花展へ見学に行き、主催者から事業所への一時貸出を受け菊の花を楽しむなど、地域との関係の継続に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行えておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、コロナの影響により、面会等の接触は中止しているが、電話にて、情報の共有を行っている。	入居者、家族、職員が参加して定期的開催されてきたが、コロナ禍で対面での開催が困難となり、事業所や利用者の状況を書面にまとめ、会議のメンバーに届けて意見等を伺い、会議の代替とされている。	コロナ禍で書面の報告により代替されていますが、地域の代表の参加が望まれます。コロナ禍の終息を見据えて、多方面のメンバーでの開催となることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村(特に生活福祉課)と密に交流を図り、協力関係に努めている。	市の担当や生活福祉課、地域包括支援センターとは密に連携を図り、事業所の取り組み状況を説明し、相談や情報の共有等が行われている。また、感染防止用の消毒液・マスク・手袋の配布を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定に定めております。玄関に展示しております。身体拘束委員会を開き、毎月話し合いを行っております。	身体拘束廃止委員会が毎月開催され、テキストを使った職員研修も行われています。現在、一部の拘束が2例見られますが、同意書の取り交わしと経過記録が作成され、拘束廃止に向け取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会はないが、精神的虐待にも注意を払い、防止に努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用している方がいます。今後、利用対象者がいましたら、活用していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、説明を行い、理解・納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは、電話にて情報の共有を行っている。	利用者とは日々の触れ合いの中で、家族には窓越しの面会や定期的な電話連絡、施設便りの「コア・タイムズ」の送付、ブログの開設などが行われ、コロナ禍でも要望が汲み取られ、日々の運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時や申し送りの際に、如何に入所者様が、良い環境で過ごせるかを考え反映させている。	効果のあった「少人数飲みみにケーション制度」が現在は行えないので、日常的に話し合いの機会を持ち、年2回の個人面談も行われている。また、定例の職員会議での発言も活発になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の働き方の要望に合わせて、環境の整備に努めています。 特定処遇改善加算も取り入れ、給与水準を上げ、職員のモチベーションに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近場の研修がある際は、職員にご案内をしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流を図り、サービスの質や情報交換などの取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が困っていることや、不便に感じていることを気づき、実際に投げかけたり、取り除いたりして関係を構築しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や入居後に、家族様と関わりを多く持ち、不安なこと・困っていることに耳を傾けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の日常会話・生活リズム・表情からニーズを引き出し、サービス提供を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・入所者と考えず、家族のように自然でいられる関係・環境を築けるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の情報を面会時・通話により共有を行い、関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様・家族様の意向がある場合は進んで支援させていただきます。	面会や外出が制限される中、散歩の折に挨拶を交わしたり、自治会館の菊花展を觀賞したり、降りないドライブで新築の市役所を見学したり、希望で自宅へ行ったり、感染対策を施して、関係の継続に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の雰囲気や本人様の心身状態により、関わりを持てるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談がございましたら、支援致します。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に添えるように、日々の声掛け・見守りより情報得て、意向に添えるようにしております。	表情や働きかけに対する反応をよく観察し、回想法なども用いて各自の出来ることや行いたいことを見つけ、役割を果たしていただくことで自分が役に立っていると感じていただける本人本位の支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の”らしさ”を尊重し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の情報は、日々の申し送りやノートを活用し、把握しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やミーティングで、職員の意見を反映させてプランニングし、介護計画を作成しております。	管理者と計画作成担当者によるモニタリングを基に、職員も意見を出して話し合い、家族の要望や医師・看護師の意見も得て、適切な介護計画が作成されている。また、利用者の変化に応じて、見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・会議等で、職員間で情報を共有しながらモニタリングし、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態変化や家族様の要望や意向による支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全・安心な暮らしが行えるよう支援しております。地域資源の把握が出来ておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診があります。主治医と密に連絡を取り、連携を図っております。	入居時に主治医選択の説明がなされ、往診対応の協力医療機関を選ばれる利用者が多いが、専門医への通院は、状況や注意を書面や口頭で家族に伝え、必要な場合は職員が同行し、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携を行っております。週2回訪問されています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、相談員や看護師・医師と連携を取り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様・Dr・訪問看護・「ここあ」職員と密に連携をとり方針を決めております。	入居時に終末期に事業所で出来ることの説明が行われ「看取りについての事前確認書」が交わされ、重度化の折は家族との話し合いを重ね、医師・看護師の協力も得て支援がされている。複数の看取り実績があり、職員もメンタルを含めて適切な対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は、行えておりません。急変時の対応は、職員一同把握できるようマニュアルを作成しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を行っております。又、水害時の避難マニュアル作成	夜間想定を含め年2回の避難訓練が行われています。また、3年前の台風時に市指定の避難所へ避難した経験から問題点を洗い出し、より適切な避難場所の検討が行われており、避難マニュアルも作成されている。	年2回の避難訓練が行われ、風水害に対する避難場所の検討も行われています。災害時は予期せぬことが起こることも考えられます。地域との協力が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々的心情の変化を把握し、心の置き所を大切にし、声掛けを行うよう心掛けております。	利用者が他人に知られたくないことは、声の大きさや言葉遣いに注意が払われ、居室入室の場合は声掛けをし、許可を得ている。個人情報やパソコン・タブレット化が進みセキュリティが向上している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いや声掛けを心掛け、本人様が表現できるように働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースに合わせた生活を大切に、支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は、身だしなみやおしゃれの支援をおこなっております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に行えることを把握し、準備や片付けを行っている。	職員が献立を考え、食材を買い出し、調理を行い、家庭的な食事が提供され、利用者も準備や後片付けを手伝ってられる。外食が制限される中、ラーメンや焼きそば、テイクアウト弁当なども提供され、ホットケーキ作り、干し柿作りも行われ、多彩な食を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量・排尿量などを、把握し支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた、口腔ケアをおこなっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の習慣を把握し、誘導を行っております。トイレへの時間が空いている際も、声掛けを行い促しております。表情・仕草も見逃しません。	排泄パターンや表情・仕草を参考に、日中はトイレ排泄を原則とし、夜間は利用者の状況に合わせて適切な支援が行われており、きめ細かなケアにより、オムツ類を汚さずに済むようになった改善例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動(ラジオ体操・散歩・レク)や水分を提供しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、入浴日を設けている。体調不良や気分が乗らない時は、臨機応変に対応しております。又、入浴剤を用いて気分転換しています。	週2回の入浴を基本とされているが、利用者の状態に合わせて融通を利かせた入浴が支援され、拒否者に対しては、タイミングや担当を変えるなどの工夫をされている。また、リフト浴も備えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や生活環境に合わせて睡眠・休息時間を設けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能が一目で分かりやすいように、一覧表を作成し、把握しやすいように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の嗜好・集中される物を提供しております。又、洗濯物片付けを一緒にし、歩行訓練を促しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に行きたいと要望がある場合は、なるべく希望に添うように対応している。	コロナ禍で、外出制限が続く中、気候・天候の良い日は、外気浴や日光浴、近隣の散歩、庭での草花の世話などが行われている。また、初詣や季節の花見、新築の深谷市役所の見学などが、降りないドライブなどの工夫で行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える方は、自身で所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より、ご希望された場合は、ご家族様へ電話しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整え、快適に過ごせるように考え支援しております。	干支の虎や季節ごとの花、雛祭りのポスターなどが飾られた共用空間は、吹き抜けで明るく、上がり框(畳)もあり、温度・湿度もよく管理され、利用者が思いおmoiの場所で、思いおもいに過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日光浴ができる空間を設け、ゆったりとした時間が提供できるよう工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの、ベッド・エアコン・洗面台以外は、ご本人様の物を持参して頂いています。	利用者愛用の家具や日用品、家族の写真などが持ち込まれ、各自の生活ペースで過ごして頂ける部屋となっている。また、毎朝食後に掃除・換気・消毒が行われ、共用空間共々清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認識力を維持するため、表記・絵を用いて、環境を整えています。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームここあ深谷

作成日: 令和 4年 4月 5日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現状、コロナ禍により運営推進会議を開催できないことはやむを得ない状況ではある。収束後は、地域の自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の多方面からの参加を得て、運営に関する意見を取り入れる。収束後は再開が想定される。	コロナが収束した際に、運営推進会議に自治会長、民生委員、包括の職員に参加していただき、サービス向上に繋げる。	・運営推進会議への参加していただく働きかけ。 ・イベント開催を主催し、地域を巻き込む。	12ヶ月
2	35	避難訓練を年2回実施しているが、近年の風水被害に対する避難時の対応を考えていかなければならない。	災害時対応の共通認識・対応の統一を行う。	・避難訓練時に、火災・地震・水害を想定した訓練を行う。 ・市より配布されたハザードマップの活用。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。